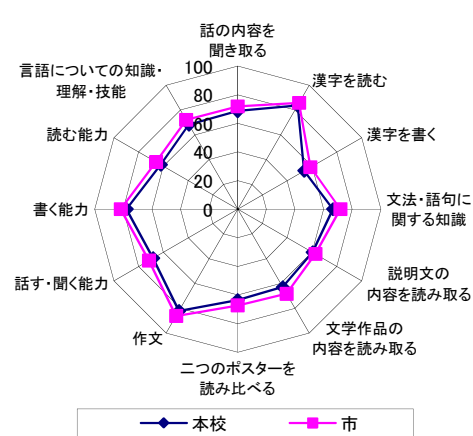


宇都宮市立鬼怒中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	68.6	71.9
	漢字を読む	83.8	85.7
	漢字を書く	53.7	58.7
	文法・語句に関する知識	66.5	71.7
	説明文の内容を読み取る	60.4	62.6
	文学作品の内容を読み取る	62.9	68.3
	二つのポスターを読み比べる	63.6	67.2
	作文	82.1	86.2
観点別	話す・聞く能力	68.4	71.7
	書く能力	77.7	81.8
	読む能力	62.1	65.9
	言語についての知識・理解・技能	68.1	72.1



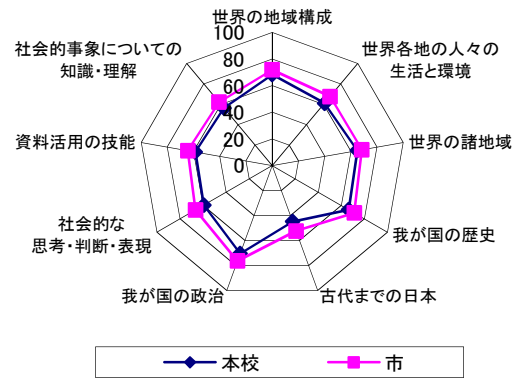
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	・市のレベルより3.3ポイント下回っている。特に「目的や意図に応じて、自分の考えを的確に話すことができる。」が6.9ポイント低い。 「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。」は市と同レベルである。	・まじめにメモをとりながらの聞き取りができているが、書くことに懸命になってしまいがちである。要点やキーワードを押さえての聞き取りを指導していく。
漢字	・漢字の読みは1.9ポイント、書きは5ポイント低い結果である。	・漢字の読み書きは宿題を出して練習させているが、小テストを取り入れた指導を定期的に行い、力を付けさせる。
文法・語句に関する知識	・昨年度より高いが、市のレベルより5ポイント低い結果である。文節についての理解は市より3.1ポイント高い結果であるが、単語についての正答率が低い。	・文法については繰り返しの指導が必要である。特に単語と故事成語については文例をあげ、文の中での使い方や意味について指導を行う。
説明文の内容を読み取る	・市のレベルより2.2ポイント低い結果である。2項目においては市よりも高い結果であるが、残り2項目が低い。特に「構成や展開を整理してまとめる力」のポイントが低い。	・文章の構成について、接続語の知識を生かしながら読み取る力を付けさせるとともに、事実と意見の表現の違いを繰り返し指導していく。
文学作品の内容を読み取る	・市のレベルより5.4ポイント低い結果である。特に「登場人物の心情を読み取る力」が劣っている。	・心情の読み取りは、生活経験に左右される部分が多い。多くの優れた文学作品に触れることが大切である。読書指導を充実させ、読書量を増やしていく。
二つのポスターを読み比べる	・市のレベルより3.6ポイント低い結果である。特に「ポスターを作る際の工夫をとらえることができる」が低い。	・目的に沿った表現(考え)を読み取ること、比較したときの違いを言葉で表現することをねらいとした指導を重ねていく。
作文	・昨年度より4ポイント高いが、市のレベルより4.1ポイント低い結果である。	・相手に分かりやすく伝えるための文章を書けるよう、自分の意見と根拠を書き分ける練習を多くする。また、短作文の指導を充実させ、使える語彙を増やしていく。

宇都宮市立鬼怒中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の地域構成	68.3	71.9
	世界各地の人々の生活と環境	61.1	67.7
	世界の諸地域	65.0	68.4
	我が国の歴史	66.4	71.2
	古代までの日本	44.8	52.3
	我が国の政治	70.5	76.3
観点別	社会的な思考・判断・表現	59.3	66.5
	資料活用 of 技能	58.7	64.3
	社会的な事象についての知識・理解	56.3	62.1



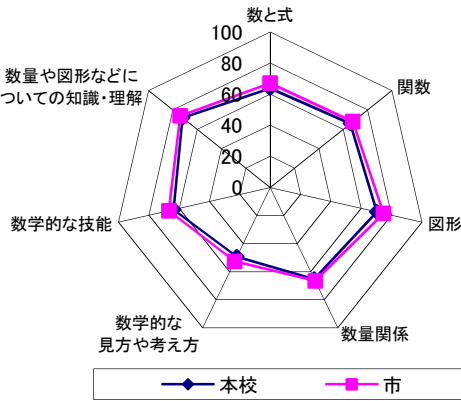
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の地域構成	・全4問とも資料活用 of 技能の問題で、その平均は市の正答率を3.6ポイント下回っている。 ・地球儀の図を利用して三大洋の分布を答える問題の正答率が特に低く、市の正答率よりも6.9ポイント下回っている。 ・図を利用して緯度・経度を答える活用問題の正答率は50%を下回っているが、市の正答率との差は1.9ポイントと、他の問題と比べて差は一番小さい。	・地理分野では、社会的な事象についての知識・理解についての問題数は少ない傾向にある。しかしながら、活用問題を解くためには基本的な知識を身につけておかねばならないので、重要語句を身につけさせるための指導を引き続き行う。 ・地図や地球儀の図、グラフを使用した授業をできるだけ多く取り入れて丁寧に指導し、復習問題も多く解かせ、資料を正確に読み取る力をつける。 ・活用問題を解く力を向上させるために、論理的に考える思考力を育てるとともに、社会の出来事に関心を持ち、一般教養の知識を増やしていく必要がある。授業で思考させる場面をとり入れたり、身近な時事問題を授業に取り入れたりする工夫をしていく。
	世界各地の人々の生活と環境	・全3問のうち、資料活用 of 技能の問題が1問、社会的な思考・判断・表現の問題が2問で、その平均は市の正答率を6.6ポイント下回っている。 ・全3問すべてが身につけた知識をもとに、写真資料を読み取ったり、内容を考えたりする活用問題であり、地理分野で一番低い正答率となっている。	
	世界の諸地域	・全4問のうち、社会的な事象についての知識・理解の問題が1問、資料活用 of 技能の問題が2問、社会的な思考・判断・表現の問題が1問で、その平均は市の正答率を3.4ポイント下回っている。 ・社会的な事象の知識・理解を答える問題については、市の正答率を1.4ポイント上回っている。 ・全4問中正答率ワースト1と2は、身につけた知識をもとにグラフを読み取る問題である。	
歴史	我が国の歴史	・全2問とも社会的な事象についての知識・理解を答える問題で、小学6年生で学ぶ学習内容であるが、その平均は市の正答率を4.8ポイント下回っている。 ・太平洋戦争について答える問題の正答率は50%を下回っている。	・歴史分野では、社会的な事象についての知識・理解についての問題数が多い傾向にあるため、重要語句を身につけさせるための指導を繰り返し行う。 ・小6の歴史の範囲は中3前半で改めて詳細に履修する範囲なので、基本的なことから丁寧に指導していく。 ・資料を見て分かったことをまとめるなど、考えたことを文章化する学習に力を入れる。 ・歴史上の出来事の大まかな流れをつかませるために、年表を活用してまとめる活動を取り入れる。
	古代までの日本	・全14問のうち、社会的な事象についての知識・理解の問題が10問、資料活用 of 技能の問題が2問、社会的な思考・判断・表現の問題が1問で、その平均は市の正答率を7.5ポイント下回っており、領域別に見ると最も差が大きく、また最も理解度が低くなっている。 ・文章で答える問題の正答率が、市の正答率と比べて大きく下回っている。	
公民	我が国の政治	・全4問とも社会的な事象についての知識・理解を答える問題で、小6の学習内容であるが、その平均は市の正答率を5.8ポイント下回っている。 ・全4問とも日本国憲法についての問題であるが、三大原則でもある国民主権と平和主義に関する問題の正答率が低めであった。	・中3の公民で改めて詳細に学習する内容である。特に日本国憲法の三大原則については重要な事項なので、理解できるように指導する。

宇都宮市立鬼怒中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	63.7	67.1
	関数	65.9	67.9
	図形	70.2	74.7
	数量関係	65.3	66.5
観点別	数学的な見方や考え方	49.4	52.6
	数学的な技能	63.6	66.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.0	73.9



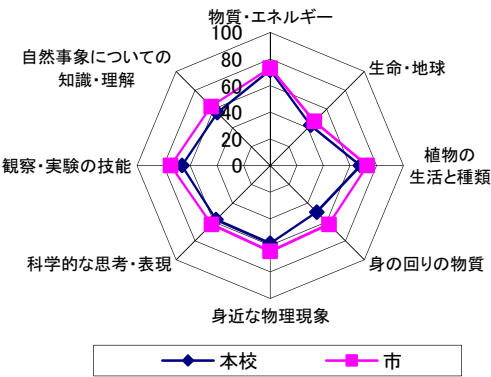
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・市の正答率を3.4ポイント下回っている。特に、正負の数の大小関係の問題や正負の数を利用した問題では、市の正答率を上回っている。1次式の計算や1次方程式の計算では、ミスが目立った。	・基本的な計算の反復練習を定期的実施する。単元ごとの復習の時間を確保することやモジュール学習を利用し、計算力の定着を図る。また、机間指導をして、質問をしやすい環境を作ることや生徒同士の教えあいの場を授業の中で多く取り入れていく。
関数	・市の正答率を2.0ポイント下回っている。特に、比例・反比例の関係を理解しているかを問う問題では、市の正答率を上回っている。しかし、比例・反比例の関係を式で表したり、グラフで表したりすることが苦手な生徒が多い。	・比例・反比例において、表・式・グラフの関係を正しく理解するために、きちんと書かせることや表・式・グラフを関連させて指導する。身近なものを例に挙げて指導していくことで身の回りに比例・反比例の関係になっているものを見だし、関心・意欲を高めていく。
図形	・市の正答率を4.5ポイント下回っている。小学校の「拡大図」の内容で、縮図を使って実際の長さを求める問題の正答率が市の正答率よりも6.8ポイント下回っている。「拡大図」の内容の理解度が低い。	・「拡大図」と同じような内容は3学年で学習することになる。図形の内容は苦手意識が強い生徒が多い。視聴覚機器や模型を使うなどして生徒たちに視覚的にうったえる指導をするなど工夫していきたい。
数量関係	・市の正答率を1.2ポイント下回っている。小学校の「場合の数・資料の調べ方」の問題で、組み合わせが何通りあるか、並べ方が何通りあるかなど、考えるのが苦手な生徒が多い。	・「場合の数」と同じような内容は2学年で学習することになる。組み合わせや並べ方を求める時には、図をかくなどして、視覚的に理解できるように工夫をしていきたい。

宇都宮市立鬼怒中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	71.5	73.3
	生命・地球	42.9	47.0
	植物の生活と種類	67.8	72.9
	身の回りの物質	49.4	62.4
	身近な物理現象	58.4	64.5
観点別	科学的な思考・表現	57.5	62.5
	観察・実験の技能	66.3	74.8
	自然事象についての知識・理解	56.1	62.8



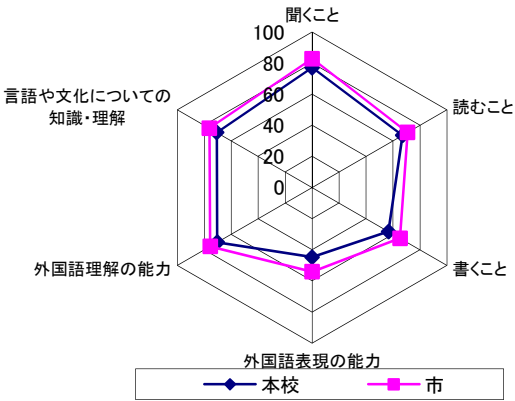
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	比較的正答率が高い。全国や市と比較しても、大差はない。ただし、電気の利用における科学的思考の問題においては、9ポイント強下回っていた。	てこや電気の単元については、ある程度理解がされているようだ。科学的思考力については、実験によるデータ収集をもとに、いろいろと考えていく学習をさせることで、向上させていくことが必要である。
生命・地球	正答率が低く、全国や市を下回る結果だった。特に、地層の特徴についての問題では、全国と比較して12ポイント以上下回っていた。	普段の授業を見ていると、地学分野については、興味・関心があまりわからないようだ。自分たちの身近で起きていて、生活にも密接な関係があることを気づかせていく必要がある。
植物の生活と種類	正答率が高い問題が多かった。合弁花と離弁花の分類に関する問題では、全国や市の正答率を上回った。ただし、実験の考え方や種子植物以外の植物の理解がひくく、正答率が11ポイントを下回った。	実験・観察については、調べたい事柄に対して、何を使ってどのように調べたらよいかを考えさせて取り組ませたいが、まずは、基本的なことを、目的等を理解させながら行わせていくことを続けていく。
身の回りの物質	正答率が低く、全国や市を大幅に下回る結果だった。全国と比較して20ポイント前後下回った問題が8問中2問あり、15ポイント前後下回った問題が8問中3問もあった。残りの3問も5ポイント以上下回っている。	化学分野に対して苦手意識があるのかもしれない。知識・理解も不十分であった。基本的なことを、ポイントを絞って教えていくことが必要かと思われる。また、密度の計算等、計算力にも難点があるようなので、小学校の算数レベルの計算力を上げていく必要がある。
身近な物理現象	最も最近学習した内容なのだが、思ったより正答率にのびがない。「屈折」という用語については、全国や市の正答率を、13ポイント前後下回っている。	物理分野への苦手意識も高いようだ。自分たちの身近で起きている現象であり、生活と密接な関係があることを気づかせながら、基本的なことをしっかり学ばせていく必要がある。

宇都宮市立鬼怒中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	聞くこと	77.0	82.8
	読むこと	67.1	70.8
	書くこと	56.6	65.2
観点別	外国語表現の能力	44.8	54.1
	外国語理解の能力	70.5	75.7
	言語や文化についての知識・理解	70.8	76.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	・市の平均を5.8ポイント下回っている。しかし、英文の要点を聞き取る問題については、市の平均を上回っている。特に記述式の問題の正答率が低いことが総合ポイントの低さの原因となっている。	・各単元や単元内のトピックの導入のためのオーラルイントロダクションの実施により、聞くことに慣れさせることでリスニングに対する抵抗感は少なくなってきたようである。ALTとのチームティーチングでネイティブの発音に触れる機会を大切にしていきたい。また、音読活動の中でイントネーションや発音を意識させ、英語特有のリズムにも慣れさせたいと考えている。各単元ごとに行っているT-Fテストを今後も継続していきたい。
読むこと	・市の平均を3.7ポイント下回っている。しかし、語形・語法についての基礎的な問題については、市の平均を上回っている。長文の読み取りでポイントが低く、ある程度まとまった英文の内容を理解することが苦手な生徒が多いようである。	・教科書本文読解の前に読み取りポイントの確認をすることで、長文の読み取りが苦手な生徒も取り組みやすくなると考える。また、内容について、英問英答だけでなく日本語で答える問題も活用することで取り組みやすくしたい。加えて、英文中の代名詞の指す内容を確認することも確実に行うことで、理解の一助になると考える。
書くこと	・市の平均を8.6ポイント下回っている。特に、自分の好きな季節について、3文以上のまとまった内容で説明する英文を作る問題が正答率が低かった。基本的な単語の中でも正しく書くことができないものがあり、書くことの定着が低い。	・自分の意見をまとめてある程度の内容の英文を書くことが苦手なようなので、まずは、英文で表現するための文法を確実に理解させたい。そのために、授業中は会話活動だけでなく、それをノートに書かせる時間もとるように心がけたい。また、新出単語の習得のため、ノート内にある単語練習ページも丁寧に取り組むなど生かしていきたい。